

上級日本語コースにおけるWikiの試み

ワシントン大学 松田 いずみ

要 旨

本研究は、上級コースにおいてウェブツール「ウィキ」を使用した活動報告である。ウィキを使って教師はコースウェブサイトを簡単に開設することができ、学習者はそのサイトに個人またはグループのウェブページを日本語で容易に作成することができる。ウィキは、共同作業で文書を作成するのに向いているとされているが、日本語のクラスでは、読み書きの活動として有効だけでなく、教室外での日本語使用および学習者同士のコミュニケーションも促すことができる。また、学生間、あるいは教室を越えたコミュニティ形成も図れる。本稿では具体的な活動例を提示し、第二言語コースでのウィキの利用法と課題を考察する。

【キーワード】 ウェブツール、ウィキ、共同作業、コミュニティ形成、教室外活動

1. はじめに

これまでの外国語教育の現場では、様々なインターネットを使ったツールが利用されてきた。Eメール、ディスカッションフォーラム、チャットなどがその例である。また、最近では、ブログ、ウィキ、RSS (Really Simple Syndication/Rich Site Summary) などが言語教育に有効なツールであると注目されている (Godwin-Jones 2003)。1クラス20人と学生数が多いワシントン大学の4年生のコースでは、ペアワークやグループワークをさせることが多い。そしてたいてい期末プロジェクトとしてグループワークの課題を出すのだが、筆者はウィキがグループワークに適していると言われている点に着目し、利用してみることにした。またウィキは特にHTMLの知識がなくても、簡単に操作ができるので、教師も学習者も技術的なことに時間をかけることなく取り組むことができる。今回ウィキを利用することにより、グループワークの際に利点があっただけでなく、学生の教室外での日本語によるコミュニケーションを促せた点、またそれによるコミュニティ形成が可能になった点など、ウィキが外国語教育に有効であることが確認できた。

2. ウィキについて

2.1. ウィキとは

個人で作成されるブログと違い、ウィキはグループでの共同作業によって作成された文書である (Reinhardt & Thorne 2007)。ウィキペディアがウィキの一番よく知られている例であるが、そのウィキペディアによると、ウィキとは次のように定義される。

ウィキ (Wiki) あるいはウィキウィキ (WikiWiki) とは、ウェブブラウザを利用してWebサーバ上のハイパーテキスト文書を書き換えるシステムの一つである。…ウィキでは通常、誰でも、ネットワーク上のどこからでも、文書の書き換えができるようになっているので、共同作業で文書を作成するのに向いている。

この特徴から、ウィキはコラボレーションツールやグループウェアであるとも評される。…ウィキウィキ (Wiki Wiki) はハワイ語で「速い、速い」を意味し、ウィキのページの作成更新の迅速なことを表す。(ウィキペディア)

ウィキはコンピュータープログラマーであるウォード・カニンガムが発明し、1995年に始めてウィキサイトがインターネット上に創設された。現在ウィキは様々な教育機関で利用され、<http://www.wikispaces.com/>や<http://pbworks.com/academic.wiki>などのサイトで無料のウィキに登録できる。筆者は Wikispaces.com を利用したのだが、操作方法是簡単で、まずウィキスペースと呼ばれるコースウィキを開設し、そのウィキスペースに学生たちが使用するページを設置する。ウィキスペースは、一般公開、またはコースのメンバーのみがアクセス可能という設定にもできる。基本的には下の3つの設定のオプションがある。

(1) 一般の人が閲覧、編集できる。

(2) 一般の人は閲覧できるが、グループメンバーのみ編集可能。

(3) グループメンバーしか閲覧、編集ができない。

(3) の場合は、利用のための費用が必要になる。(1)の場合は、ウィキペディアのように一般の人も文書の書き換えが可能になるので、クラスで使用する場合は、(2) か (3) のオプションを使うのが妥当であろう。

2.2. ウィキの機能

ウィキの最も重要な機能は編集機能である。各ページの「編集」ボタンをクリックすると、そのページが編集可能な文書になり、内容を編集したあと、「保存」をクリックすると、すべての編集内容が保存できる。このように各ページの書き換えは、誰でも簡単にでき、上で述べた設定 (2), (3) の場合は、グループメンバーであればそのウィキスペース内のページのどのページでも編集することができる。この機能はウィキ特有の機能であり、この機能によって、ウィキは共同作業で文書を作成するのに向いているとされている。そして誰でも文書に手を加えることができるので、教師が学生の間違いをウェブ上で簡単に指摘したり、訂正したりすることも可能になる。また文書だけでなく、写真や、YouTube などの動画、音声ファイル、ハイパーリンクなどを簡単に載せることができるので、外国語コースで使用する場合、文化的情報を盛り込んだページを作成することが可能になる。その他の機能にはディスカッション、歴史機能があり、「ディスカッション」をクリックすると、グループメンバーと意見交換をすることができ、「歴史」をクリックすると、そのページを誰がいつ編集し、どのように編集したのか、全ての記録が見られる。これらの機能を利用し、ウィキは多くの教育機関で、グループワークの一環として使用されているケースが多いようだ。図1はウィキの例である。

3. コースの概要

本稿では、ワシントン大学4年生のコースでのウィキの使用例を紹介する。4年生の学生のレベルだが、3年生で三浦・マグローイン (1994) の「中級の日本語」を終えて入ってきた学生がほとんどで、中には夏学期中や1年留学してきた学生もいた。先にも述べた通り、学生数は20人だった。このコースは3年生に引き続き4技能を伸ばしていく

というコースで、各学期いくつかのトピックに基づいた新聞記事、CALPER¹のリスニング教材などの生教材を使い授業を進めている。また、学期末にはグループプロジェクトワークを行った。本稿で紹介するウィキの使用は、2008 年秋学期と 2009 年冬学期に実施した。

4. ウィキを使った活動例

ワシントン大学で筆者がウィキを使って行った活動は、自己紹介ページの作成と期末プロジェクトとして行ったグループワークである。それぞれの活動について活動内容と考察を学生からのコメントを紹介しながら説明したい。

4.1. 自己紹介ページの作成

この活動は4年生の秋学期の最初に行った。課題内容は学習者にまず自己紹介のページを自由に作成させる、というもので、ページができあがった後お互いの自己紹介のページを見て、質問、コメント、意見交換をさせた。この活動は、ウィキの使い方に馴染ませる目的があったのだが、コースのはじめにクラスメートのことを知るという点でも意味のある活動であると筆者は考えた。ワシントン大学の場合、1～3年生までの学生数が多く、3年生レベルでも受講者が120名もいるため、4年生になってもまだお互いのことをよく知らない、というケースが多い。この活動には教師も参加したが、自由な意見交換を促したかったので、間違いの指摘などの手は加えなかった。なお、最初の導入以外は全て教室外で行われた。図2は自己紹介ページの一例である。

この課題は、ウィキを使った典型的な活動である文書の共同作成ではなく、個人ページの作成だったので、ブログを使った活動と似ている。結果も Stanley (2005) が述べている外国語のクラスでのブログ利用の効果と同じような効果が見られた。まず、この活動によって、教室外での自主的な意味のある意見交換を促すことが可能になった。特に学生がお互い同じ趣味や興味があることがわかった場合、例えばJポップやアニメなど日本関係のことについては、多くの意見交換が自発的に行われた。図3はある学生のディスカッションのページである。

このタスクは、ソーシャルネットワーキングサイトのフェイスブックやマイスペースなどを使いこなしているデジタル世代の学生には、最適なタスクだったように思われる。そしてこの活動を通して、学生はクラスメートのことをもっと知ることができ、すぐに打ち解け、クラス内活動にも「和気あいあい」と参加することができたようである。つまり、ウィキを使用することによって、コミュニティ形成が促され、学生同士がコミュニケーションを活発に図り、日本語や日本文化の知識をシェアする場が提供できたと言える。² もちろん、筆者自身も学生の個人的な一面を知ることができ、クラスでは交わさないような意見交換も行うことができた。そして、学年のはじめにそれぞれの学生のレベルや弱点などを確認することも可能になった。またこの活動は、ウィキの使い方を知るのにとってもいいタスクだったことは言うまでもない。

¹ Learning through Listening Towards Advanced Japanese by CALPER (Center for Advanced Language Proficiency Education and Research).

<http://calper.la.psu.edu/learningthroughlistening/>

² National Standards in Foreign Language Education Project. (1999). Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century.



図 1 ウィキの例



図2 自己紹介ページの例



図 3 ディスカッションページの例

ウェブサイト作成の詳しい知識がなくても簡単に操作できるので、学生は技術的なことに時間をかけず日本語でサイトを作成することに集中できた。また、筆者はコンピュータラボでクラスを一回行い、ウィキの導入にあてたが、使い方の説明だけならその必要もなかったと思われる。以下、このタスクについての学生からのコメントをいくつか挙げておく。

- “Compared to almost all of the classes that I previously took in college, I felt that I had a better knowledge about my classmates and could easily make friends :) “
- “It was a good way to get to know each other and a good learning experience. By reading each other’s introductions, I learned a lot of kanji and expressions.”
- “I thought it was a good introductory assignment, open-ended so it allowed for creativity.”
- “I thought it was better than listening to everyone give their 自己紹介. Instead of cramming all of them in the class, we were able to read people’s 自己紹介 on our own time.”

4-2. グループプロジェクト

二つ目の活動は、期末プロジェクトの内容を他のクラスメートが読めるようにウィキにまとめる、というもので、秋学期と冬学期の終わりに行った。ここで紹介するプロジェクトのテーマは、冬学期の後半で扱った「食文化」で、自分たちで決めたトピックについて新聞やインターネットで資料を探してリサーチし、その内容についてウィキにまとめる、というタスクを与えた。図4はこのプロジェクトのウィキの一例である。

ほとんどのグループは、読んだ記事へのリンク、記事から分かったことのまとめ、補助資料やグラフ、写真、漫画、YouTube のビデオなどをウィキに載せている。また、秋学期にはインタビュープロジェクトを行ったのだが、インタビューに関しては、実際学生が日本人にしたインタビューの音声ファイルを簡単に載せられたので、教師もインタビューがきちんとできているか確認できたし、他の学生も聞くことができた。

先に述べたように、ウィキは文書の共同作成に向いているとされているため、このようなプロジェクトでのウィキの利用は、典型的な利用法だと考えられる。ウィキの利点として、インターネットさえあればどこからでも課題に取り組むことができるという点があるが、このプロジェクトでも多くの学生がその点を利点として挙げていた。学生は教室外で直接集まる必要はなく、それぞれが自宅のコンピューターからページにアクセスすることによって、簡単にプロジェクトに取り組むことができた。これは、時間をかけて通学したり、アルバイトをしている学生の多いワシントン大学においてかなり便利な機能だったようだ。また、一番多かったコメントに、ウィキのページに様々なアイデアや情報を随時載せていき、それから内容をまとめていくことができたことがよかった、というのがあった。これについては、Reinhardt & Thorne (2007) も、ウィキはプロジェクトの最初の段階としてのプロジェクト計画やブレインストーミングに使うのが理想的な利用法だ、と述べている。そしてウィキを利用することによって、Eメールでの文書のやりとりの手間も省けたようだ。また、他のグループのウィキを参考にしながら、自分たちのページを作成することができた、というのを利点に挙げた学生が多くいた。筆者はそれまで普通にグループプロジェクトをやらせ、結果を発表させていたのだが、今回はプロジェクトの進行中に他のグループのプロジェクトの内容を見ることができ、上手なグループに刺激を受ける、などの効果があったようだ。



図4 グループプロジェクトの例

以下、学生からのコメントである。

1. How does Wiki help you in doing your project?

- *“It makes it easier to coordinate with my project partner (our schedules are very different, so with Wiki we can add things at our own pace.)”*
- *“Both my partner and I can edit the page, eliminating the need to send emails with attachments. This way, we can make small detailed changes.”*
- *“It helped to consolidate resources, get information on one page in easily accessible way.”*
- *“It helped me to organize all my information in one place and get comments from you (teacher).”*

2. Does viewing others' pages help you? If so, how does it help you?

- *“It lets me see how others are thinking and what they are doing, so I have a better idea of what I need to do.”*
- *“Gain some ideas of what to do for my own project.”*
- *“It helps me get ideas for own page, also interesting project topics.”*

ウィキをプロジェクトワークに利用するにあたって、教師にとっても様々な利点があった。まず、学生のプロジェクトの進み具合を確認することができたし、またグループのメンバーの中で、誰が一番貢献しているか、または貢献していないメンバーはいるか、ということも確認できた。グループワークをさせる場合、すべてのメンバーが貢献しているか、ということがたいてい問題になると思われるが、初めに「教師がモニターしている」ということを伝えておくことにより、その問題は防げるかもしれない。そしてディスカッションのページで、教師と質問やコメントのやりとりができたこともよかった。最後に、ウィキにプロジェクトをまとめることにより、いつでも誰でも閲覧が可能になるので、多くの学生が真剣に取り組んだようだし、他の人の目に触れるウェブサイトを作成させた、という達成感も感じたのではないかと思う。筆者のクラスでは実際に行わなかったが、コースウィキを一般公開すれば、より意味のある課題になったし、Wheeler, Yaomans & Wheeler (2008) が指摘しているように、より多くの人が見るという前提でウィキに取り組ませると、学生はもっと正確なページを作成しようとしたかもしれない。

5. 考察

5.1. ウィキの利点

ウィキは様々な点で外国語のクラスにおいて有効であると言える。まず、筆者が試みた自己紹介のタスクのような課題を通して、教室外での第二言語の使用、学生間の意味のある意見交換を促すことができる。それは、学生同士のコミュニティ形成につながる。また、マルチメディアの利用により、ターゲット文化に触れる機会を増やすこともでき、教室外での読み書きの練習にもなる。そしてグループプロジェクトに利用すると、共同作業が容易になるし、教師がプロジェクトの進度をモニターすることも簡単にできる。また、本稿では詳しく述べなかったが、筆者はウィキを利用し、学生にウィークリージャーナルを書かせる課題も試みた。このタスクは、ブログの典型的な利用法と似ている。これはかなり自由な形の課題だったので、興味のある人しかやらない、という結果になったが、やる気のある学生にはかなり好評なタスクだった。実際、日本語を使って書い

たり読んだりする機会が増えた、新しい語彙や文法に触れることができた、などというコメントもあった。

5.2. ウィキの問題点

ウィキを利用するにあたって、困難な点もあったことは否定できない。まず 20 人のコースでは、ウィキの全てのエントリーを読むだけでかなり教師に負担があった。特に自己紹介のような個人のページになると、もう少し人数が少ないコースでないと負担が大きくなりすぎてしまう。それからブログなどと同じように、ウィキを使った活動をどう評価するか、というのは非常に難しい点だ。このコースでは、ウィキを参加点に入れたが、もっと詳しく評価する場合、どのような基準でどこまでエントリーを評価するかというのは、筆者の今後の課題である。また、今回は大きな間違い以外は指摘せず、自由なエントリーを促したわけだが、間違いが気にならなかったわけではない。ただ、あまり間違いを指摘したり、間違いで成績を下げることにすると、自由な意見交換は望めなかっただろう。正確さを重視するタスクが他にあれば、間違いがあってもコミュニケーションが図れればいい、というタスクもあっていいと筆者は考えている。またウィキで間違いを指摘すると他の学生にも見られてしまう、という問題もある。

ウィキでは全て他の学生が閲覧できるという点に関して、Parker & Chao (2007)は、学生は他の人の目を気にして書けないかもしれない、というウィキの問題点を指摘している。しかし、筆者のクラスでは、外国語を使って書いていたのにもかかわらず、学生たちは比較的自由に意見交換を行っていたようだ。この点に関しての学生のコメントも、「他の学生が読んでいることはさほど気にならなかった」という意見がほとんどで、意外な結果だった。これは間違いをあまり指摘しなかったからかもしれないし、学生たちは、ウェブ上で個人的なことを書いたり、意見交換したりすることに慣れていて、このような活動に比較的気軽に参加できたからかもしれない。しかし、プロジェクトに関しては、もう少し細かい間違いを指摘して書き直しをさせるべきだった、というのが筆者の反省点だ。ただページ数が増えてくると、かなり教師に負担になってくる。学生同士でお互いの間違いを直させることをもっと促すと、教師の負担も軽減されたかもしれない。

ウィキは全体的に使いやすいツールであるが、いくつか技術的な問題点も見られた。まず、ページにアクセスできる人は誰でも内容を書き換えることができるという点はウィキの利点だが、これは弱点にもなるという指摘がある (Educause Learning Initiative 2005)。このコースでも、誤ってクラスメートのページの内容を変えてしまった、または文書を削除してしまった、ということが混乱を招いたことがあった。この問題については、幸い全ての変更は元に戻すことができる。また他のグループメンバーと同時に内容を変えようとしていた時にも問題があった、と言う学生もいた。この問題については、Wheeler, Yaomans & Wheeler (2008)も指摘している。下は学生が挙げた問題点である。

- *“The font, size, and arrangement of the phrase that I had to copy and paste kept on changing by itself every time I edited, so I had to type it in word to word.”*
- *“(It) can’t put two images beside each other, so (there is) no comparison.”*
- *“Two people cannot update a webpage at the same time. It was not very good for organizing if you don’t know HTML.”*

- *“The “save draft” function didn’t work properly, and files could only be uploaded in the administrative section or else it would show as a broken link.”*

5.3. 感想とまとめ

今回はワシントン大学4年生のクラスでのウィキの使用例を紹介したが、学生からは、使いやすい、楽しかった、また将来のクラスで利用したい、というような肯定的なコメントを多く得た。もう利用したくない、という学生は2名だった。否定的なコメントは、ウィキの技術的性能の低さ、それによってあまり高度なウェブ作成が期待できない点、また最近他のクラスでもウェブの利用ばかりで飽きた点などを述べたものだった。下に学生からのコメントをいくつか挙げておく。

- *“It’s a great resource to use.”*
➤ *“Lots of fun! It’s a refreshingly different way to participate.”*
➤ *“It’s a helpful, useful tool.”*
➤ *“(It was) very convenient and useful for a classroom setting. While it may seem somewhat simplistic to some, the way it is used in the class helps the students in their reading and writing skills and is, therefore, worth it.”*
➤ *“There is a lot of online content for all of my classes and I’m kind of tired of it.”*
➤ *“(It) did not improve my learning much. Class material is more helpful.”*

筆者自身は、ウィキは問題点もあるが将来性のあるツールだと感じた。まず、ウェブページ作成の知識があまりなくても、教師はウィキを使って簡単にコースウェブサイトを設置することができる。そして今回筆者が実施しなかった利用法として、ウィキの一般公開や、ポートフォリオとしての利用なども考えられる。ウィキを一般公開するとクラスの学生同士だけでなく、クラスを越えた地域でのコミュニティ形成も可能になる。また、ポートフォリオとして利用すれば、学生は長期に渡って自分の日本語の上達度を確認することができる。

このようにウィキは日本語教育において、有効なウェブツールであると考えられる。ウィキを使うと、これまでの典型的なタスクではなく、教室を越えたレベルでの学習環境が形成できるので、特に上級のコースで有効なのではないだろうか。ウィキを共同作業に利用することはもちろん、その他の活動にも利用される機会が増えていくことを筆者は期待する。

参考文献

- Educause Learning Initiative (July, 2005). 7 things you should know about wikis. Retrieved June 9, 2009 from <http://www.educause.edu/ir/library/pdf/ELI7004.pdf>
Godwin-Jones, B. 2003. Emerging technologies. Blogs and wikis: Environments for on-line collaboration. *Language Learning & Technology* 7(2), 12-16.
Miura, A., & N. H. McGloin. 1994. *An Integrated Approach to Intermediate Japanese*. Japan Times
Morrison, S. (2002). Interactive Language Learning on the Web. *Eric Digest*. Retrieved Jun 9, 2009 from <http://www.eric.ed.gov/>

- National Standards in Foreign Language Education Project. (1999) *Standards for Foreign Language Learning: in the 21st Century*. Yonkers, NY: National Standards in Foreign Language Education Project.
- Parker, K.R. and Chao, J.T. 2007. Wiki as a Teaching Tool. *Inter-disciplinary Journal of Knowledge and Learning Objects* 3, 57-72.
- Reihhardt, J. & Thorne, S.L. 2007. SCMC, Blogs, & Wikis: A Manual for Professional Teacher Development. Center for Advanced Language Proficiency Education and Research (CALPER). Retrieved June 9, 2009, from <http://calper.la.psu.edu/technology.php>
- Stanley, G. 2005. Blogging for *ELT*. BBC World Service. Retrieved June 9, 2009, from <http://www.teachingenglish.org.uk/think/articles/blogging-elt>
- Warlick, D. 2007. The Executive Wiki. *Technology & Learning*. Retrieved June 9, 2009, from <http://www.techlearning.com/article/7456>
- Wheeler, S., Yaomans, P. & Wheeler D. 2008. The Good, the Bad and the Wiki: Evaluating Student-Generated Content for Collaborative Learning. *British Journal of Educational Technology*, 39, n6, 987-995.
- Wiki 2009. In *Wikipedia, the free encyclopedia*. Retrieved May 25, 2009 from <http://ja.wikipedia.org/wiki/Wiki>
- 参考サイト
- Common Craft. (2007, May). Wikis in Plain English, Retrieved June 10, 2009 from YouTube.
<http://www.youtube.com/watch?v=-dnL00TdmLY>
- Kristin Hokanson. The Connected Classroom. Retrieved June 10, 2009 from <http://theconnectedclassroom.wikispaces.com/>
- Wikispaces: <http://www.wikispaces.com/>